あびらの未来を、みんなで考える。

新しい総合計画づくりが始まっています

「総合計画」は、町の未来のかたちを決める大切な計画です。

現在、平成29年度から始まった第２次総合計画に基づき、令和８年度までの10年間で、さまざまな取り組みが進められています。

この計画は、教育や子育て、人づくりやコミュニティづくり、経済や産業、健康や福祉、生活環境や生活基盤など、安平町に関わるあらゆる分野の「方向性」を示す「まちづくりの設計図」であり、将来の「ありたい姿」を出発点として定め、そこに向かうための道筋が段階的に描かれていきます。

本ページでは、計画に関するお知らせや令和９年度からスタートする「第３次総合計画」の策定へ向けた町の取り組みなどについてお知らせします。

前回のおさらい

住民基本台帳から無作為に抽出した300名に対し参加案内をお送りし、ご応募いただいた皆様とワークショップを４回実施。これまで実施したアンケート調査結果などの情報を踏まえ、次の点をお聞きしました。

①この10年間の安平町はどうだったか、どのように変化したか

②この先の安平町は、何を大切にするまちであってほしいか

今回のおはなし

調査項目①のⅤ生活環境、生活基盤の続き、調査項目②「この先の安平町は、何を大切にするまちであってほしいか」について、参加者の皆様からお話しいただいた概要をお知らせします。

協議内容（調査項目① 続き）

政策分野Ⅴ　生活環境、生活基盤

【地域公共交通】

・JR石勝線、室蘭線の維持問題は学生の通学や住民の足に直結する深刻な課題であり、自治体間の連携や国への働きかけが不可欠。

・デマンドバスなど町独自の施策は、一定効果があると考える。

【消防防災、交通安全、消費生活】

・平成30年北海道胆振東部地震を経験したことから「災害がない」と想定するのではなく、気候変動や地震を前提とした安心、安全の構築が町の特色になるべきだ。

・町内を縦断する唯一の幹線道路である国道234号線は、大型車両の通行が激しく冬季間の対策も不十分であり、国に対して幅員の拡幅や休憩スポットの設置など安全性の向上をより強く求めるべき。

協議内容（調査項目②）

●農業と教育の融合

・一人ひとりの「しあわせ」に注目する考え方に共感する。

・北海道で先駆けて取り組んでいる「オーガニックビレッジ（有機農業）」をさらに推進し、学校給食への活用などを通じて、子どもたちに安平の農業の価値を伝えたい。

・「子育て教育のまち」という認知を維持しつつ、高齢者の声も拾い上げる町であってほしい。

・全国から多様な人々が集まって地元が活性化されていることから、継続してほしい。